



# 佐野中通信

ひたちなか市立佐野中学校  
令和8年度学校だより  
No.4 6月号  
令和8年6月1日(月)

## 燦々照今よりよき今をともに創らん

### 雲去りて 天一色

去る5月20日(水)に第59回体育祭を開催しました。雨天順延などを除いて、今年度の年間行事予定を立てる段階から、初めて平日の実施としました。好天に恵まれ本当にうれしい限りです。天気予報よりもいささか暑かったので体には少し堪(こた)えたかもしれません。

今年度の体育祭は、どの学年もかなりの接戦でした。全競技終了時の得点の総計は、1年生は2位と3位が50点で同点。2年生は1位から4位までが46点で同点。3年生は3位と4位が46点で同点でした。そのため、8の字縄跳びの結果が勝敗を分けることとなりました。まさか体育祭で「内規」を元に順位が決まるとは…。しかも、三つのすべての学年でのことであり、過去を振り返っても記憶にありません。限られた時間の中練習をしてきて、僅差をもって順位が決まることとなりました。体育祭の全ての競技を終えてよりよい結果を手にしたクラスは、何がしかのよい運を呼び寄せたのかもしれませんが。ただ、いずれにしても、佐野中のみんなが無我夢中、精一杯に自分たちの出番に力を注いだことで、結果にとらわれない充実感に満たされたことと思います。「悔いは全くありま



せん。」という、ある3年生女子のひとことに今回の体育祭が総括されているように思いました。

それからもう一つ書き記しておきたいことがあります。それは、なぜかしら今年の体育祭は「砂」と縁があったことです。特に5月14日の予行練習の際には何度も北東からの風が吹きつけ、誰もが砂嵐に見舞われました。これに対して本番の風は穏やかでしたがGroundは乾いていたので、走ったり飛んだりするたびに砂塵と砂煙が舞い上がりました。なぜ、こんなにも砂と縁があるのでしょうか。これは、もしかしたら佐野“San o”中だからかもしれません。砂は“San d”ということで、やはり佐野中は“San”に縁があるのでしょうか。お陰様で曇りの予報であっても、佐野中は“Sun”を呼び寄せたようです。創立80周年記念の年にSunとSandがそろい踏みということで、「燦・燦」と体育祭当日の「今」を「照」らすことができました。

「雲去天一色」

西の空は、雲去りて天一色。青く青く晴れ渡る空となった今年の体育祭でした。



智仁武勇



生活の柱：時空人の「間」を照らす - 時「間」・空「間」・人「間」

Key Word：時空人の間を燦々と照らして よりよき今をともに創らん

初めての体育祭では、緊張しながらも、仲間とともに全力で競技を楽しむ様子が印象的でした。特に大縄では、回数を重ねるごとにタイミングが合うようになり、クラスのまとまりも少しずつ感じられるようになりました。体育祭を通して得た経験や成長を、これからの学校生活にもつなげていってほしいと思います。



3年生にとっては中学校最後の体育祭が行われました。学年練習において、高村先生に「後輩の手本となってほしい」と言われていた通り、最高学年として立派な姿が見られました。入場口で円陣を組む姿、他学年を応援する姿、競技に全力を注ぐ姿。どれも「中学生としての集大成」でした。まさに佐野中の伝統を創り広げた1日でした。

先日の体育祭では、2年1組は勝利のために全力を出し尽くしました。学年種目「君たちはどう運ぶか」では、予行練習ではうまくいかず最下位でしたが、最後まで諦めず、話し合いと練習を重ねた結果、本番では見事に1位になることができました。この体育祭で培った団結力を日々の学校生活に活かしていきます！



去る5月5日(火)のことです。国営ひたち海浜公園において、「吹奏楽 Festival 2026」が開催されました。このイベントには、全部で四つの団体が参加しましたが、その一つに本校吹奏楽部が招待されました。社会人が1団体、高校生が2団体、そして中学生は佐野中吹奏楽部1団体です。本当にありがたいことです。佐野中生は、卒業生の高校1年生の元吹奏楽部員とともに、午前と午後の2回、青空の下で演奏を楽しみました。最適な機会を与えていただいたこと、感謝申し上げます。

